

貧困による子どもへの影響を緩和する 夜間保育施設の役割と可能性に関する研究

札幌大谷大学短期大学部 大澤 亜里

研究の背景と目的

背景

- ・幼児教育・保育は子どもへの貧困の影響を緩和する上で大きな役割を果たす
- ・末子が0～5歳の母子世帯の母親のうち25%が夜間あるいは深夜に働いている
- ・認可夜間保育所の利用者のうち、母子世帯は26.5%、母子世帯のうち貧困・低所得世帯は86.3%
- ・認可夜間保育所73か所に対し、夜間・深夜まで開所しているベビーホテルは542か所と、認可外の施設が夜間保育ニーズの多くを満たしている
- ※ベビーホテルへの立入調査（実施率67.2%）で不適合となったのは42.3%

目的

夜間保育施設の保育の質が向上し、貧困による子どもへの影響を緩和し、子どもの権利を保障する社会的資源として機能するために必要な制度的拡充について検討する

課題1：夜間保育施設における保育の質の実態を権利保障の視点から把握する

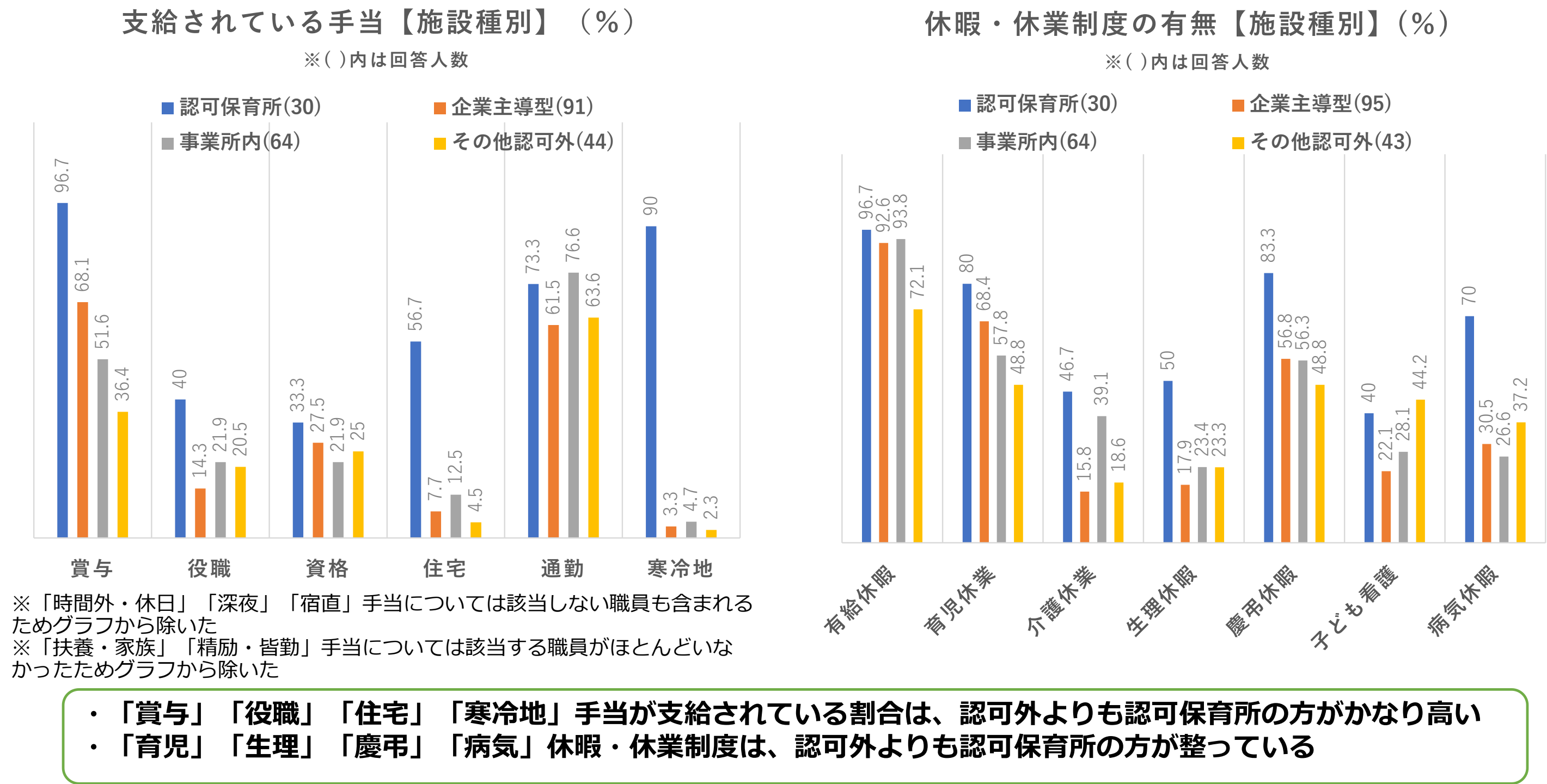
→「実施運営の質」（保育の計画の作成と反省・評価、連携、研修の機会等）

→「構造の質」（人的環境として保育者の労働環境等）

→「プロセスの質」（日々の保育実践、保育者と子ども・保育者と保護者・保育者同士の関わり等）

課題2：夜間保育施設を利用している保護者の子育て・生活・仕事に対するニーズを把握する

結果Ⅱ：夜間保育施設の構造の質の把握—労働環境—



研究の方法—Z市の認可および認可外夜間保育施設を対象とする調査—

調査Ⅰ：夜間保育施設の運営および保育環境に関する調査

- 1)調査対象者：施設長あるいは代表者 ※配布数38、有効回答数28（回答率73.7%）
- 2)調査時期および方法：2023年10月～11月末、アンケート調査（紙orオンライン回答）
- 3)調査内容：施設の概況、職員の概況、利用者の概況、他機関連携、研修への参加等

調査Ⅱ：夜間保育施設の保育者の労働環境に関する調査

- 1)調査対象者：夜間保育施設で働く職員（正規・非正規）※配布数432、有効回答数240（回答率55.6%）
- 2)調査時期および方法：2023年10月～11月末、アンケート調査（紙orオンライン回答）
- 3)調査内容：経験年数、保有資格、給与、手当、労働時間、休暇制度、研修への参加等

調査Ⅲ：夜間保育施設の保育および子育て支援に関する調査

- 1)調査対象者：夜間保育施設の代表者および保育者16名（無資格者1名含む）
- 2)調査時期および方法：2024年2月～3月、インタビュー調査
- 3)調査内容：保育内容や子どもとの関わり、子育て支援の内容や保護者との関わり等

調査Ⅳ：夜間保育施設利用者の子育て・生活・仕事に関する調査

- 1)調査対象者：夜間保育施設を利用している保護者5名
- 2)調査時期および方法：2024年10月、インタビュー調査
- 3)調査内容：保育施設の利用、日々の家事・子育て・仕事について等

結果Ⅲ：夜間保育施設のプロセスの質の把握—生活リズムに関する実践—

認可保育所：施設長Aさん（施設長歴6年、保育経験35年）

開園時間：7時～24時

夜間利用している子どもの数と降園時間

➡6人程度（定員30名）

➡月に何回か24時ギリギリの降園の子がいるが、それ以外はだいたい21時半頃には降園

保護者について

➡夜間利用の保護者の職業は、事務、学習塾、飲食店勤務など、これまでに、ピアノ教室、販売店、繁華街の飲食店勤務、自営業の人などいた

➡ひとり親、精神的な病を抱えている保護者、児相や家児相と連携が必要な家庭が、夜間に限らず昼間利用にも増えている

登園時間は9時半、就寝時間は20～20時半で、生活リズムを整えること、集団生活での経験を重視した実践

➡生活リズムと親子の時間の確保との間で感じるジレンマ

登園時間を保護者の仕事の時間に合わせて午前中は一緒にいられるようにしたが、そうすると友達との関係がなかなか育っていない、どうしても夜型の生活リズムになってしまう

➡夜間保育利用と昼間保育利用との間で感じるジレンマ

昼間利用で慌ただしく19時にお迎えをして、帰宅後ご飯、お風呂よりは、夜間利用で18時に園で夕飯を食べた方がいいか、しかし園で一度寝て起きてから帰宅すると、自宅での就寝が遅くなってしまふ

その他の認可外：パートBさん（勤務歴10年、保育経験17年）

開園時間：24時間

夜間利用している子どもの数と降園時間

➡21時以降をメインに利用しているのは50人くらい、21時以降も利用することがあるのは60～70人

➡降園のピークは24時、1時半、3時過ぎにあり、あとは5時、6時などバラバラ

保護者について

➡職業は、繁華街の接待を伴う飲食店、風俗店が多く、その他、学習塾、看護、介護職、建設業、自営業、会社経営など様々

➡ひとり親、頼れる親族が近くにいない保護者、障害が疑われる保護者が結構いる

➡保育料の滞納など経済的に心配な世帯が3、4割

登園・ご飯・就寝時間ともに、園のリズムに合わせるのではなく、その子どもと保護者のリズムに合わせることを重視した実践

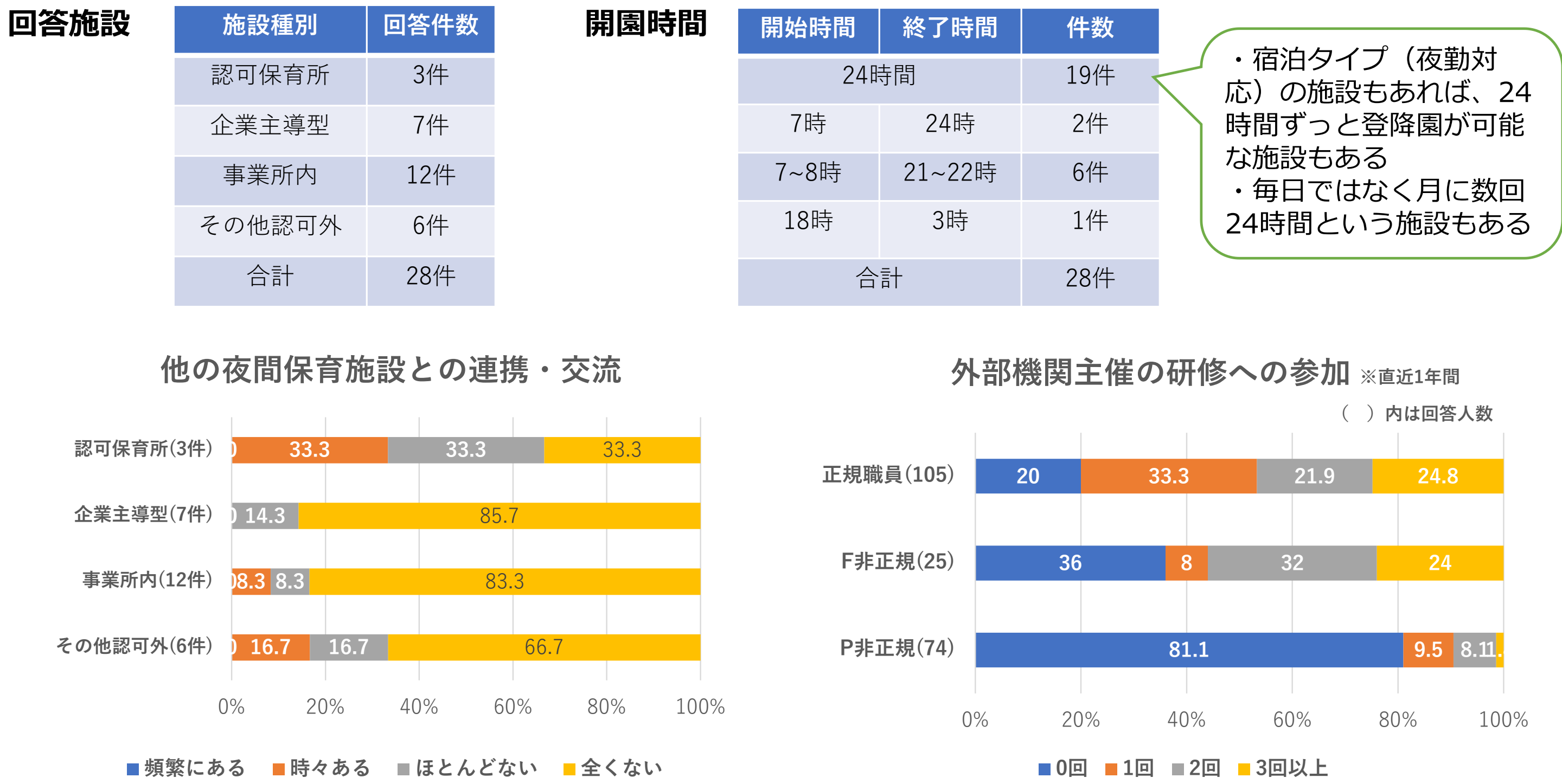
➡子どもの生活リズムと保護者のリズムとの間で感じるジレンマ

昼型の生活リズムの方がいいとは思いますが、保護者が昼間寝ている間に家から出ていかないか心配、保護者が無理なく、子どもが安全に過ごせることが一番

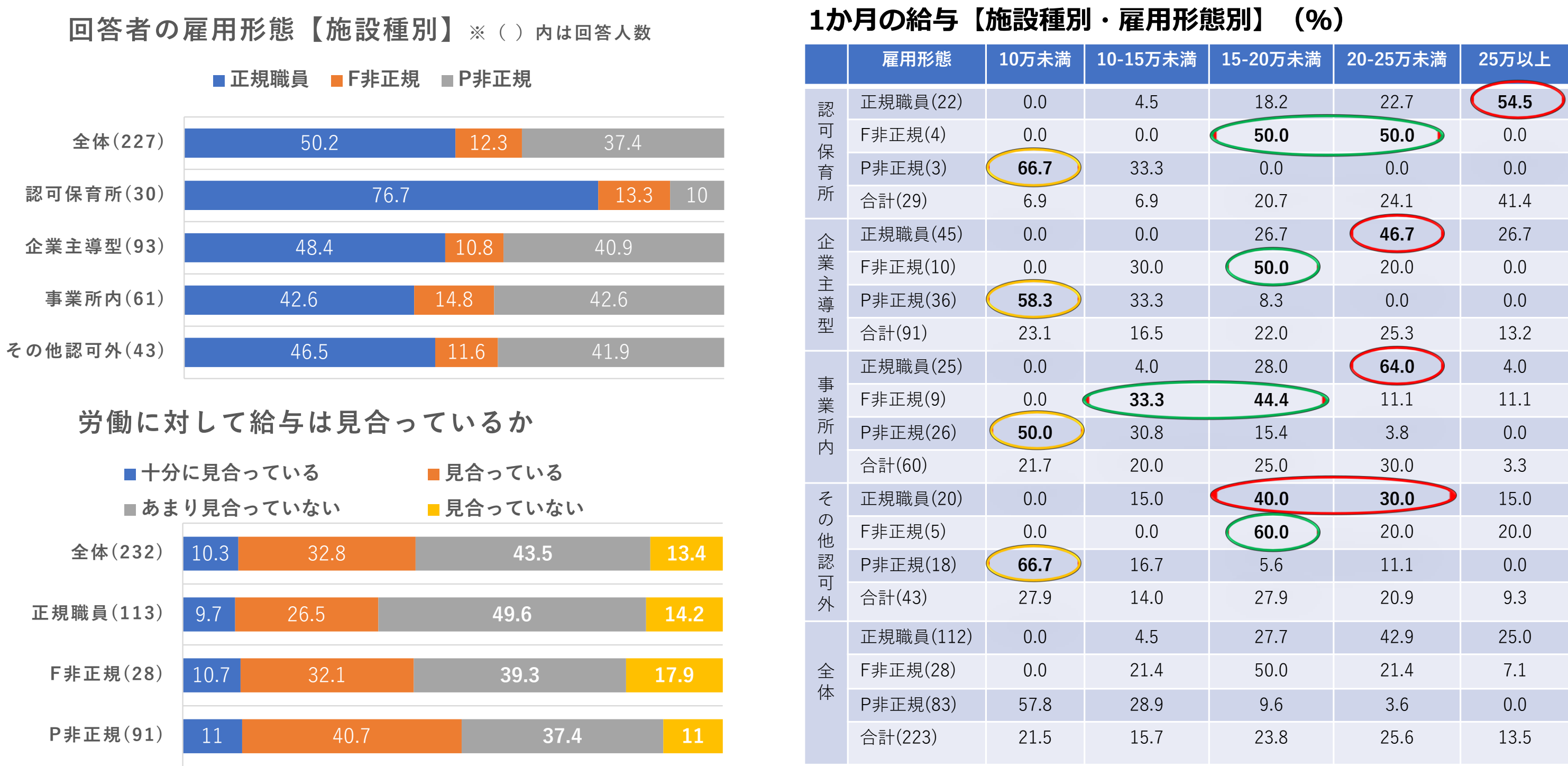
➡夜型から昼型の生活リズムになるきっかけ

一重保育を利用している場合、3・4歳になって子ども自身が「友達と遊びたい」、保護者が「集団生活の経験をさせたい」という気持ちになると昼から園に来るようになりリズムが整ってくる

結果Ⅰ：夜間保育施設の実施運営の質の把握—連携・研修—



結果Ⅱ：夜間保育施設の構造の質の把握—労働環境—



まとめ

●実施運営の質—連携、研修の機会について—

- ・認可・認可外の枠を超えて、他の保育施設（在園児が通っている児童発達支援や保育所・幼稚園等含む）や他機関、行政機関と連携・交流をすること
- ・非正規職員（特にパートタイム職員）の研修機会を確保すること

●構造の質—保育者の給与、休暇・休業制度について—

- ・認可外保育施設の給与水準、手当の支給、休暇・休業制度を認可保育所と同程度に整備すること、全体的に改善すること

●プロセスの質（生活リズムに関する実践）と保護者のニーズ

- ・保護者の生活リズム・仕事の時間に関わらず、子どもの生活リズムを整えていくことと、必要な時（保護者の健康状態や休息、勤務時間外の仕事等）には保育料、保育時間を気にせず利用できること

➡各保育施設任せにするのではなく、子ども・保護者・保育者の権利を保障する保育・子育て支援施設として機能するために以上の課題を解決するような制度的拡充が必要

【主な参考文献】

- ・秋田喜代美・小西祐馬・菅原ますみ(2016)『貧困と保育—社会と福祉につなぎ、希望をつむぐ』かもがわ出版
- ・秋田喜代美・古賀松香編著（2022年）『世界の保育の質評価—制度に学び、対話をひらく—』明石書店
- ・池本美香(2022)「認可外保育施設の側面から保育制度の在り方を考える」JRIレビュー-Vol.6, No.101, 41-55
- ・浦川邦夫(2024)「生活時間の貧困—家族・ジェンダーの視点—」『貧困研究』Vol.32, 18-27
- ・大石亜希子(2017)「24時間週7日経済におけるワーク・ライフ・バランス」『大原社会問題研究所雑誌』701, 24-39
- ・全国夜間保育園連盟(2019)『全国夜間保育園利用児（者）実態調査』
- ・全国夜間保育園連盟監修・櫻井慶一編集（2014年）『夜間保育と子どもたち—30年のあゆみ—』北大路書房
- ・前田正子(2023)「夜間保育の今—夜に働く親たちと忘れられる多様な保育ニーズ—」『週刊社会保障』No.3211, 44-49